

国民文化祭について

※前回（R5.1.31）の審議会後に決定等された内容を赤文字で表示

1 正式名称

第 40 回国民文化祭、第 25 回全国障害者芸術・文化祭

2 統一名称（愛称）

「ながさきピース文化祭 2025」（全国公募により決定）

3 キャッチフレーズ

「文化をみんなに」（全国公募により決定）

4 会期

令和 7 年 9 月 14 日（日）～令和 7 年 11 月 30 日（日） 78 日間

5 主催

文化庁、厚生労働省、長崎県、市町、県実行委員会、市町実行委員会、文化団体、障害者関係団体等

6 国民文化祭とは？

国内最大規模の文化の祭典で、国民の文化活動への参加意欲の喚起、新しい芸術・文化の創造を促し、併せて地方文化の発展へ寄与するとともに、生活の一層の充実に資することを目的としています。昭和 61（1986）年に開催されて以降、毎年各県持ち回りで行われており、平成 29（2017）年からは全国障害者芸術・文化祭と一体的に開催されています。長崎県では、今回が初開催となります。

2022 年…沖縄県 2023 年…石川県 2024 年…岐阜県 2025 年…長崎県

（内容）

県内各地で文化事業の全国大会や地域の特色を活かしたイベント等を開催します。

① 開閉会式

開会式：令和 7 年 9 月 14 日（日） 会場：アルカスSASEBO（佐世保市）

（長崎県の文化や歴史を音楽やダンスで表現するステージプログラム、式典）

閉会式：令和 7 年 11 月 30 日（日） 会場：長崎ブリックホール（長崎市）

（県内各地で行われた取組みを総括するステージプログラム、式典、次期開催県への引継ぎ）

② 文化事業の全国大会

市町が文化団体と連携し、全国から出場者や出品者を募集し、分野ごとに行う全国規模の発表会や公演、展覧会、交流会

③ 市町・文化団体プログラム

市町や文化団体が、開催地の文化資源や観光資源を活用し行うイベント（障害者交流事業含む）

④ 県主催事業

本県の文化芸術資源を活用した交流人口拡大や人材育成につながる取組み

7 県の状況

(1) 実行委員会

令和4年11月7日 設立総会・第1回総会

(内容)

長崎県実行委員会の設置、国民文化祭及び実施事業の概要説明、実施体制、役員及び委員の委嘱、基本構想(案)説明、令和4年度事業計画及び収支予算案の説明、統一名称・キャッチフレーズの公募について説明。

令和5年5月24日 第2回総会

(内容)

会期・統一名称(愛称)・キャッチフレーズ・スペシャルアンバサダー就任の決定について報告、令和5年度事業計画及び収支予算の決定、開閉会式会場の決定。

(2) 今後のスケジュール

(令和5年度)

- ・国実行委員会による基本構想の承認
- ・事業別実施計画の策定(～令和6年度)
- ・各種PRイベントの開催

(令和6年度)

- ・県実行委員会による実施計画の承認
- ・国実行委員会による実施計画の承認
- ・事業別実施計画の策定
- ・開催要項、募集要項の作成及び配布
- ・各種PRイベントの開催
- ・岐阜県閉会式における引継式への出席、次期開催県アトラクションの実施

8 市の状況

(1) 実行委員会

令和5年7月7日 令和5年6月市議会定例会において関連予算を議決

(2) 実施事業の検討

(文化事業の全国大会)

長崎県において、どこの市町で全国大会を実施するのか調整中。

(市町・文化団体プログラム)

庁内各所属で実施されている事業等について調査中。

(3) 今後のスケジュール

(令和5年度)

- ・長崎市実行委員会の設置
- ・実施事業ごとの事業計画書策定(～令和6年度)

第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭

長崎県実行委員会 第2回総会

日時：令和5年5月24日（水）13：30～
場所：THE GLOBAL VIEW長崎
プレミアホール

次 第

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 報告
 - ・報告第1号
役員及び委員等の変更について
 - ・報告第2号
会期の決定について
 - ・報告第3号
統一名称（愛称）及びキャッチフレーズの決定について
 - ・報告第4号
スペシャルアンバサダーの就任について
- 4 議事
 - ・第1号議案
令和4年度事業報告（案）について
 - ・第2号議案
令和4年度収支決算（案）について
 - ・第3号議案
令和5年度事業計画（案）について
 - ・第4号議案
令和5年度収支予算（案）について
 - ・第5号議案
開閉会式会場（案）について
- 5 閉会

役員及び委員等の変更について

(敬称略)

【副会長】

所属	新	旧
長崎県議会議長	徳永 達也	中島 廣義
長崎県副知事	浦 真樹	平田 修三
長崎県市長会会長	古川 隆三郎	田上 富久

【委員】

所属	新	旧
長崎市長	鈴木 史朗	田上 富久
佐世保市長	宮島 大典	朝長 則男
長崎県市議会議長会会長	毎熊 政直	深堀 義昭
長崎県町村議会議長会会長		山口 憲一郎
公益社団法人長崎県看護協会会長	日野出 悦子	西村 伊知恵
長崎県校長会会長	種吉 信二	高坂 英晃
長崎県高等学校長協会会長	立木 貴文	鶴田 栄次
長崎県特別支援学校長会会長	分藤 賢之	平田 昭輔
長崎県中学校文化連盟会長	本田 勝一郎	山鹿 義弘
長崎県商工会議所連合会会長	森 拓二郎	宮脇 雅俊
公益社団法人日本青年会議所九州地区長崎ブロック協議会会長	下津浦 朱門	吉川 航平
九州旅客鉄道株式会社執行役員長崎支社長	岸本 悟	田中 渉
株式会社毎日新聞社長崎支局長	神崎 真一	久保田 修寿
株式会社時事通信社長崎支局長	松本 真太郎	佐々木 昌巳
長崎県CATV協議会会長	宮崎 和久	太田 賢一郎

【監事】

所属	新	旧
長崎県市長会監事	杉澤 泰彦	白川 博一

第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭

長崎県実行委員会委員名簿

令和5年5月24日現在

役職	所属	氏名
会長	長崎県知事	大石 賢吾
副会長	長崎県議会議長	徳永 達也
	長崎県副知事	浦 真樹
	長崎県副知事	平田 研
	長崎県教育長	中崎 謙司
	長崎県市長会会長	古川 隆三郎
	長崎県町村会会長	古庄 剛
	長崎県文化団体協議会副会長	河野 英雄
	社会福祉法人長崎県社会福祉協議会会長	出口 啓二郎
委員	長崎県文化観光国際部長	前川 謙介
	長崎県福祉保健部長	寺原 朋裕
	長崎県警察本部長	中村 亮
	長崎市長	鈴木 史朗
	佐世保市長	宮島 大典
	島原市長	古川 隆三郎
	諫早市長	大久保 潔重
	大村市長	園田 裕史
	平戸市長	黒田 成彦
	松浦市長	友田 吉泰
	対馬市長	比田勝 尚喜
	壱岐市長	白川 博一
	五島市長	野口 市太郎
	西海市長	杉澤 泰彦
	雲仙市長	金澤 秀三郎
	南島原市長	松本 政博
	長与町長	吉田 慎一
	時津町長	吉田 義徳
	東彼杵町長	岡田 伊一郎
	川棚町長	波戸 勇則
	波佐見町長	前川 芳徳
	小値賀町長	西村 久之
	佐々町長	古庄 剛
	新上五島町長	石田 信明
	長崎県市議会議長会会長	毎熊 政直
	長崎県町村議会議長会会長	
	長崎県美術館館長	小坂 智子
	長崎歴史文化博物館館長	水嶋 英治
	アルカスSASEBO館長	永元 太郎
	長崎県立長崎図書館館長	池田 浩
	一般社団法人長崎県身体障害者福祉協会連合会会長	土岐 達志
	一般社団法人長崎県知的障がい者福祉協会会長	竹内 一
	長崎県精神障害者団体連合会代表	小林 恵子
	一般社団法人長崎県医師会会長	森崎 正幸
	一般社団法人長崎県歯科医師会会長	渋谷 昌史
	一般社団法人長崎県薬剤師会会長	田代 浩幸
	公益社団法人長崎県看護協会会長	日野出 悦子
	日本赤十字社長崎県支部支部長	大石 賢吾
	公益財団法人長崎県老人クラブ連合会会長	瀧口 京子
	一般財団法人長崎県地域婦人団体連絡協議会会長	西山 智子

第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭

長崎県実行委員会委員名簿

令和5年5月24日現在

役職	所属	氏名
委員	大学コンソーシアム長崎会長	河野 茂
	長崎県校長会会長	種吉 信二
	長崎県高等学校長協会会長	立木 貴文
	長崎県私立中学高等学校協会会長	菅沼 宏比古
	長崎県特別支援学校長会会長	分藤 賢之
	長崎県高等学校文化連盟会長	平山 啓一
	長崎県中学校文化連盟会長	本田 勝一郎
	長崎県商工会議所連合会会長	森 拓二郎
	長崎県商工会連合会会長	吉村 洋
	長崎県中小企業団体中央会会長	石丸 忠重
	長崎経済同友会代表幹事	東 晋
	公益社団法人日本青年会議所九州地区長崎ブロック協議会会長	下津浦 朱門
	一般社団法人長崎銀行協会会長	山川 信彦
	一般社団法人長崎県観光連盟会長	宮脇 雅俊
	長崎県旅館ホテル生活衛生同業組合理事長	村木 菅介
	一般社団法人全国旅行業協会長崎県支部支部長	前田 寛信
	一般社団法人日本旅行業協会九州支部長崎地区委員会委員長	森 修司
	一般社団法人長崎県物産振興協会会長	黒田 隆雄
	公益財団法人長崎県国際交流協会理事長	宮脇 雅俊
	公益財団法人長崎平和推進協会理事長	調 漸
	一般社団法人長崎県バス協会会長	嶋崎 真英
	一般社団法人長崎県タクシー協会会長	四元 永生
	長崎旅客船協会会長	村木 昭一郎
	佐世保旅客船協会会長	木原 廣道
	九州旅客鉄道株式会社執行役員長崎支社長	岸本 悟
	長崎電気軌道株式会社代表取締役社長	中島 典明
	島原鉄道株式会社代表取締役	永井 和久
	松浦鉄道株式会社代表取締役	今里 晴樹
	オリエンタルエアブリッジ株式会社代表取締役社長	大人形 綱邦
	全日本空輸株式会社長崎支店支店長	山下 達矢
	日本航空株式会社長崎支店支店長	寺尾 康
	長崎空港ビルディング株式会社代表取締役社長	幸重 孝典
	株式会社長崎新聞社代表取締役社長	徳永 英彦
	株式会社毎日新聞社長崎支局長	神崎 真一
	読売新聞西部本社長崎支局長	小淵 義輝
	株式会社朝日新聞社長崎総局長	藤原 泰子
	株式会社西日本新聞社長崎総局長	前田 徹
	一般社団法人共同通信社長崎支局長	山下 修
	株式会社時事通信社長崎支局長	松本 真太郎
	日本放送協会長崎放送局長	山本 真人
	長崎放送株式会社代表取締役社長	東 晋
	株式会社テレビ長崎代表取締役社長	大澤 徹也
	長崎文化放送株式会社代表取締役社長	壹岐 正
	株式会社長崎国際テレビ代表取締役社長	川畑 年弘
	株式会社エフエム長崎代表取締役社長	曾我 敏範
	長崎県CATV協議会会長	宮崎 和久
監事	長崎県市長会監事	杉澤 泰彦
	長崎県町村会監事	岡田 伊一郎
	長崎県出納局会計管理者	吉野 ゆき子

(順不同・敬称略)

会期の決定について

1. 会期

令和7年9月14日(日)～令和7年11月30日(日) 78日間

9 月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

10 月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

11 月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

統一名称（愛称）及びキャッチフレーズの決定について

【 統一名称（愛称） 】

決定作品

「ながさきピース文化祭 2025」

作者

つかはら 塚原 ゆりな 優里菜 さん （佐世保市立清水小学校6年）

作品に込められた思い（作者説明）

被爆80年を迎える年に長崎から平和を日本中に、さらには世界中に文化、音楽の力を総動員して発信しようという思いからこのタイトルに決めました。

選考委員会での主なコメント

「ピース」という表現は文化自体が平和のもとに成り立つ楽しい活動というイメージが湧きやすい。また、ピースサインのようにポーズを想起しやすく展開力がある。宣伝の際に小スペースでもビジュアルが作りやすい。言葉も明るい。

【 キャッチフレーズ 】

決定作品

「文化をみんなに」

作者

うら 浦 ゆうか 優香 さん （長崎県立佐世保北中学校3年）

作品に込められた思い（作者説明）

文化は一定の人だけのものではない。

選考委員会での主なコメント

- ・シンプルなのに他人事じゃないニュアンスが出ていて、使いやすい。
- ・汎用性が高く、キャッチフレーズに合っている。

スペシャルアンバサダーの就任について



- 1 認 定
令和5年4月19日に共同記者会見を行い、大石知事からさだまさし氏へ認定証を贈呈
- 2 任 期
令和5年4月19日から令和8年3月31日まで
- 3 役 割
令和7年開催の第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭のPRに関する協力
- 4 選定理由
 - ・あらゆる世代の方々に抜群の知名度があり、県内外に向けた発信力が非常に高いこと
 - ・本県に対する郷土愛が強く、これまでも長崎がんばらんば国体・長崎がんばらんば大会をはじめ、県政に多大な貢献をいただいております。長崎県民栄誉賞を受賞されていること
 - ・音楽活動の傍ら、NPO ナガサキピーススフィア貝の火運動、風に立つライオン基金など幅広い分野で活動されていること

等

令和4年度事業報告（案）について

1. 開催に向けた準備

国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭の実施計画の策定に向けた事前調整を行うため次の会議等を開催した。

(1) 総会の開催

会 議	開催年月日	開催場所	議案内容
設立総会	令和4年 11月7日(月)	ホテルニュー長崎 鳳凰閣	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実行委員会設立及び会則 ・ 役員及び委員の委嘱
第1回総会			<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本構想 ・ 令和4年度事業計画 ・ 令和4年度収支予算

(2) 企画会議の開催

会 議	開催年月日	開催場所	協議内容
国民文化祭 企画会議、 全国障害者 芸術・文化 祭企画会議 第1回合同 企画会議	令和5年 2月13日(月)	出島交流会館 11階会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県主催事業の企画検討に向けた意見交換

(3) 各事業の実施に向けた調整

市町及び文化団体に対する意向調査、事業実施に係る調整を実施した。

① 市町との意見交換

期間	主な内容
令和5年1月 ～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化事業の全国大会のマッチングについて 県から市町へ全国大会のマッチング案を提示 →市町から県へ承認の有無回答 ・ 地域の特色あるプログラムについて 市町から県へ事業案の提案 →県から市町へヒアリング、更なる事業構築に向けて意見交換

	→市町から県へ事業案を再提案 ・市町実行委員会の設立について 県から市町へ令和5年度中の設立を依頼
--	---

② 中央文化団体との調整

期間	主な内容
令和5年3月	・文化事業の全国大会のマッチング 県から中央文化団体へ開催市町案を提示 →中央文化団体から県へ回答 ※継続中

2. 開催気運の醸成

国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭の本県での開催を県内外に幅広く周知し、開催気運の醸成を図るため、広報活動を行った。

(1) 親しみやすい統一名称、キャッチフレーズの募集及び選考

① 募集期間 令和4年12月5日（月）～令和5年1月31日（火）

② 応募作品数

・統一名称（愛称） 1, 541作品（うち高校生以下 219作品）

・キャッチフレーズ 1, 460作品（うち高校生以下 209作品）

③ 賞の設定

「統一名称（愛称）」「キャッチフレーズ」それぞれ

・最優秀賞 1点 ・優秀賞 1点 ・学生優秀賞（高校生以下） 1点

④ 選考委員会 令和5年3月10日（金）

(2) 県広報媒体等を活用した広報

① 県広報誌、県広報番組による広報

② 市町広報誌による広報

3. 先催県視察の実施

本県での開催に向けた円滑な準備を図るため、令和4年10月22日（土）～11月27日（日）に沖縄県で開催された「美ら島おきなわ文化祭2022」に、県実行委員会事務局職員を派遣し視察調査を行った。

令和4年度収支決算（案）について

【収入の部】

(単位：円)

項目	予算額	決算額	増減額	内容
県負担金	6,831,000	6,831,000	0	・長崎県からの負担金
諸収入	0	12	12	・預金利息
計	6,831,000	6,831,012	12	

【支出の部】

(単位：円)


項目	予算額	決算額	増減額	内容
総務費	1,249,000	523,658	△ 725,342	・実行委員会設立総会・第1回総会 ・企画会議
広報宣伝費	5,582,000	429,840	△ 5,152,160	・統一名称・キャッチフレーズの 公募及び選考会
計	6,831,000	953,498	△ 5,877,502	


収入決算額	6,831,012
支出決算額	953,498
次年度繰越額	5,877,514


監査報告

第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭長崎県実行委員会会則第15条の規定に基づき、令和4年度収支決算について、証拠書類及び諸帳簿を監査した結果、その内容は適正であると認めます。

令和5年 5月 15日

監事 杉澤泰彦 

監事 岡田伊一郎 

監事 吉野ゆき子 

令和5年度事業計画（案）について

1. 開催に向けた準備

国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭の実施計画の策定に向けた事前調整を行う。

- 第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭長崎県実行委員会総会の開催
- 国民文化祭企画会議、全国障害者芸術・文化祭企画会議の開催
- 開閉会式の実施計画策定に向けた準備
- 市町、文化団体事業の実施に向けた調整 等

2. 開催気運の醸成

国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭開催を県内外に幅広く周知し、開催気運の醸成を図るために広報活動を展開する。

- ロゴ、ポスターデザインの作成
- ポスター、チラシ、PRグッズの作成
- 公式ホームページの開設準備
- 2年前イベントの開催 等

3. 先催県調査

本県での開催に向け、円滑な準備を図るため、石川県で開催される「いしかわ百万石文化祭2023」への視察を実施する。

【いしかわ百万石文化祭2023】

令和5年10月14日（土）～11月26日（日）

令和5年度収支予算（案）について

【収入の部】

(単位：円)

項目	予算額	内容
県負担金	19,351,000	・長崎県からの負担金
前年度繰越金	5,877,514	
計	25,228,514	

【支出の部】

(単位：円)

項目	予算額	内容
総務費	4,632,600	・総会、企画会議等に係る経費 ・事務費
事業費	8,049,500	・開閉会式実施計画策定に係る経費 ・2年前イベント
広報宣伝費	12,546,414	・ロゴ、広報グッズ等の作成 ・ホームページの開設準備
計	25,228,514	

開閉会式会場（案）について

1. 開会式

(1) 会場

アルカスSASEBO（佐世保市）

(2) 理由

開会式の円滑な運営に必要な諸室として、出演者、要人、運営及び警備関係者等多数の部屋が必要と想定している。アルカス SASEBO は複数のホールを有する県内最大の文化ホールであることから、必要な部屋数を確保することが可能であるため。



2. 閉会式

(1) 会場

長崎ブリックホール（長崎市）

(2) 理由

ミュージカルや大型コンサートにも対応可能な舞台装置等を備えた大規模な文化ホールであるため。

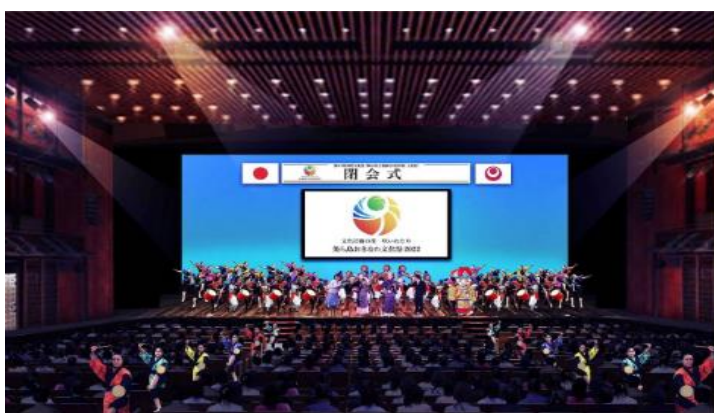


(参考)「美ら島おきなわ文化祭 2022」(第37回国民文化祭、第22回全国障害者芸術・文化祭)

① 開会式 令和4年10月23日(日) 沖縄コンベンションセンター(宜野湾市)



② 閉会式 令和4年11月27日(日) 那覇文化芸術劇場(那覇市)



③ 全国大会 「小倉百人一首競技かるた全国大会」 沖縄県立武道館(那覇市)



④ 全国大会 「太鼓の祭典」 名護市民会館(名護市)



- ⑤ 市町・文化団体プログラム（伝統芸能） 「じのーん地域伝統芸能まつり」 ぎのわん海浜公園（宜野湾市）



- ⑥ 市町・文化団体プログラム（展示） 「NAGO みんなのハート&アート展」 名護市民会館（名護市）



- ⑦ 市町・文化団体プログラム（演劇公演） 「劇団かなやらび公演会」 宮古島市文化ホール（宮古島市）



- ⑧ 市町・文化団体プログラム（障がい者交流事業） 「ちむぐるゆいフェスタ」 シャボン玉石けん くる糸満（糸満市）



文化を
みこ
ない

ながさき ピース文化祭 2025

第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭

令和7年9月14日(日)～11月30日(日)



主催：文化庁、厚生労働省、長崎県、長崎県実行委員会、県内市町、文化団体、障害者関係団体等

国民文化祭は全国規模の文化の祭典で、1986年に開催されて以降、毎年各県持ち回りで
行われており、2017年からは全国障害者芸術・文化祭と一体的に開催されています。
期間中、本県では、県内各地で全国大会や地域の特色を活かしたイベントを開催します。
また、おもてなしの心で来県される皆様をお迎えし、長崎県らしい文化の魅力を発信します。

令和7年度は長崎県にとって節目の年

- ・被爆80年
- ・美術館、博物館開館20周年
- ・日韓国交正常化60周年
- ・中国総領事館開設40周年
- ・長崎空港開港50周年

文化芸術を通じた、平和や国際交流の意義を発信していきます

基本方針

歴史を紐解き、未来へ
つなぐ海外交流

文化芸術による
まちづくり

文化資源を活かした
観光の推進

若者や子ども達が
創り出す新しい文化と
ながさきの未来

文化芸術を通じた
平和の継承

心のバリアフリーの
推進

事業内容

開閉会式

- ・(開会式)長崎県の文化や歴史を音楽やダンスで表現するステージプログラム、式典
- ・(閉会式)県内各地で行われた取組を総括するステージプログラム、式典、次期開催県への引継ぎ

文化事業の全国大会

- ・市町が文化団体と連携して実施する全国規模の発表や公演、展覧会、交流会

市町・文化団体プログラム

- ・市町や文化団体が地域の特色を活かし、文化祭の趣旨やテーマに沿って実施するイベント(障害者交流事業含む)

障害者芸術・文化祭

- ・日頃の活動の成果発表の場を創出し、誰もが一緒に参加し交流できる文化芸術事業

県主催事業

- ・本県の文化芸術資源を活用した交流人口拡大や人材育成につながる取組

民間との連携事業

- ・文化祭の趣旨に賛同し民間資金で実施する文化祭との相乗効果を図るイベントとの連携

ながさきピース文化祭 2025 のロゴデザインについて

令和7年度に本県で開催する「ながさきピース文化祭2025」の認知度向上や気運醸成を図るため、今後のPR活動等において統一的に使用するロゴデザインが決定しました。



モチーフ

- ・平和の象徴「鳩」
- ・文化を育み、未来へと繋ぐ「手」
- ・ブルーは海外との文化の架け橋となった「長崎県の海」をイメージ

コンセプト

「文化の継承」

- ・長崎県独自の文化を過去、現在、未来へと手から手へ繋げていく様子
- ・文化芸術を通じて生まれるハッピーな交流
- ・愛称の「ピース」に込められた平和への願い
- ・手を差し伸べてお互いを助け合う思いやり等を表現しています。

今後の活用

チラシ・ポスター・看板などの様々な広報媒体やグッズ、またホームページやSNSでの情報発信に広く活用する予定です。